

Management Club Report

Jun. 2009/Vol. 78

Monthly Opinion 《減収でもいい、増益を目指そう！》

昨年9月以降続く世界同時不況、巷では底打ちの兆しとの報道もあるようですが、いつも影響が遅れてやって来る歯科界では、不況の余波が遅れ馳せながら医院経営にも及び出した感じがあります。更に加えてこれまた世界的な新型インフルエンザの流行で予約のキャンセルが相次ぐなどという現象が特に関西圏では激増したようです。まさにグローバルを実感したかのようなダブルパンチですが、こんな時こそ全員一丸となって立ち向かわなければなりません。

政界や官界では『百年に一度』などと言っていますが、このフレーズには言い訳的な響きが伴っています。「百年に一度の異常な事態なのだから政治や行政の責任ではない、と言っているように聞こえる。」経済新聞のコラムにそのような表記がありました。

しかし企業家はそうは行きません。誰の責任で起きた不況だろうが企業を守る責任がトップにはあるからです。歯科医院も同じです。院長には医院を守り、従業員を守る責任があります。ここは一番、知力と気力を振り絞って防衛戦を展開しなくてははいけないのです。

1

経営資源の現状を点検し磨きをかける

経営資源はどうなっているか

防衛戦を展開するに当たり、確認しておかなくてはならないことがあります。それは自医院の経営資源の現状についてです。

経営資源とはヒト・モノ・カネと言われています。歯科医院でいうと、ヒトは従業員、モノは設備及び設備を利用する技術、カネは財務となるのでしょうか。

これらの経営資源が今どのような状態なのかを客観的に評価し確認しておくことは常に求められることではありますが、特に経営環境が厳しくなってきた今は、仮にそれが長い目で見た“景気循環の谷”という一過性のものであったとしても、是非とも行なっておかなくてはならない喫緊の課題であると言えます。

アスリートの“経営資源”

経営資源を客観的に評価するに当り、スポーツにおけるアスリートの能力評価になぞらえて考えると理解しやすいと思います。

武道から発した言葉かと思いますが、『心・技・体』という言葉がスポーツ界にはあります。これはアスリートが競技成果を挙げる上で活用する“経営資源”